

# 稲作ワンポイントアドバイス(No7)

令和4年8月1日  
JA山口県長門統括本部  
長門農林水産事務所農業部

## 1 生育等の状況 ※調査データの平年値と比較 ( )内は平年値

	草丈	茎数	葉齢	葉色
5月下旬植え きぬむすめ	平年並 88cm (88cm)	やや多い 25本 (22本)	やや早い 14.1L (13.3L)	平年並 4.2 (4.3)
5月下旬植え あきだわら	やや短い 82cm (89cm)	やや少ない 19本 (21本)	平年並 12.9L (12.5L)	やや淡い 4.2 (4.6)

- 7月4日に**斑点米カメムシ類の注意報**が出されました。  
過去10年で最も発生が多く、畦畔等でカメムシ類が多発しています。
- 7月19日に**いもち病注意報**が出されました。長門管内においても全域で確認され、特に三隅では全株で葉いもちが発生しているほ場もあります。
- 長門でトビイロウンカが6月27日に確認されましたが、飛来量は少なく、平年並みです。引き続き注意が必要です。

- 出穂期（ほ場のうち50%で穂が見えたとき）の見込み（8/1現在）

品種	移植期	出穂期の予想	調査ほ場の出穂予想
きぬむすめ	5月下旬	前年より2日程度早い	8/12~14 ほ場の中でバラつき大きい
あきだわら		前年より1~3日早い	8/12~14

## 2 今後の管理のポイント

### (1) 水管理

- 出穂前20日~出穂後20日の間、カドミウム吸収抑制のため、湛水管理を行きましょう。



### (2) 肥培管理（きぬむすめ・あきだわら）

#### ●緩効性肥料（元肥一発肥料）の場合

- 極端に葉色が淡い場合（葉色3.5以下）は、出穂前15日に、窒素量で1~1.5kg/10a程度、積極的に追肥を行きましょう。

#### ●分施の場合

- 2回目の穂肥は出穂前15日頃、窒素量で2kg/10a程度行いましょう。

### (3) 病害虫・雑草の管理等

病害虫発生予報（7月19日 山口県病害虫防除所発表）

葉いもち	多い	注意報	ヒメトビウンカ	少ない	コブノメイガ	平年並
紋枯病	平年並		セジロウンカ	少ない	斑点米カメムシ類	多い
			トビイロウンカ	平年並		注意報

- 葉いもちの病斑が上位葉（止葉や次葉）にないか観察してください。ほ場をよく観察し、病斑を見つけたら、速やかに防除を行いましょう。
- 紋枯病の常発田では出穂前25日～14日に防除しましょう。



葉いもち写真(左、中央) と 紋枯病写真(右)

- 出穂前後防除については、ウンカ類及びカメムシの防除のため、殺虫剤を必ず散布してください。
- 斑点米カメムシ類について、穂揃期（穂が8割出た頃）防除を徹底してください。穂揃期防除後に発生状況を確認し、斑点米カメムシ類が多い場合は穂揃期の7日後に防除を行いましょう。
- 出穂2週間前までに畦草を刈り終えましょう。



クモヘリカメムシ  
体長 15-17mm



ホソハリカメムシ  
体長 9-11mm



アカスジカスミカメ  
体長 4.6-6mm



イネカメムシ  
体長 12-13mm

近年県内で増加中

### (4) その他

- 熱中症のリスクが高い気温が続きます。こまめに水分と休憩を取り、熱中症を予防しましょう。

長門の水稻の病害虫発生状況、生育状況等をLINEにより発信しています。

